

3.11 福島第一原発事故から、12年!!

いまだに

「原子力

緊急事態宣言発令中」

13年目を迎えた“3.11” 福島原発事故からの教訓!!

「原発は動かしてはいけない」ということ。

放射性物質がまき散らされたら日常も環境ももう元には戻らないこと。

原発の廃炉作業もできないこと。

人は放射能の前では無力だということ。

国は避難者を護らないこと。

国民に原発の本当の事を、知らそうとしないこと。

一刻もはやくすべての原発をとめましょう。



国会の劣化で「原発回帰」が進んでいます。

岸田政権は、

①2023年の春から夏ごろに、福島第一原発でたまり続けた「放射性汚染水」を薄めて海へ流そうとしています。

②現在の原発運転期間の最長60年制度を削除し、審査等での停止期間を延長して運転できるように改悪しようとしています。

③廃炉が決まった原発を「建て替え」という言葉でごまかして新增設しようとしています。

④表面的な除染によって避難指示区域の解除を進め帰還者を積極的に支援、反して帰還しない者には支援補償の打ち切りなどを実施、事故を風化させようとしています。

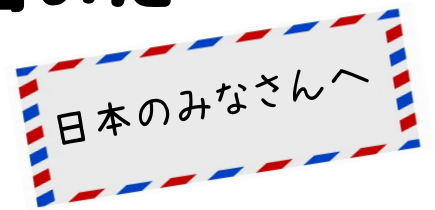
これでは、大事故がまた起き、同じことが繰り返されます。

福島事故の2011年以降、計画中でも原発新設させた国は殆ど無く、米国は30年間新設ゼロの他、英国・フランスも新設は無く、ドイツ・スペイン・スイス・ベルギー・台湾・韓国など脱原発の方向、世界の原発依存度は減少してきた。



1986年『チェルノブイリ原発事故』、2011年の東京電力の人災『福島第一原発事故』により、世界は原子力エネルギーは危険であり、非民主的で、高額で、不要な物と気付いたのです。解決策がないまま増え続けた「核のゴミ」は始末に負えない遺産、未来の世代を脅かし続けます。

ドイツの市民電力^{※1}から届いた 「日本への便り」 (独シェーナウ電力会社)



日本の方々に：福島原子力発電事故は、私たちにこの冊子^{※2}を日本語に翻訳することを思い立たせました。ここに記した数多くの数値やデータは、ドイツの原子力発電所に関するものですが、事実は世界中どこでも同じです——原子力エネルギーは危険であり、非民主的で、高額で、不要なものです。この小さな冊子が日本において、原子力に反対する市民運動に少しでも力を与え、支持するものであれば幸いです。

日本にお住まいの方で、地震に、津波に、そして原子力災害で悲惨な目に遭われたすべての方々に、私たちから、心からのお見舞いを申し上げます。

自然災害による脅威は、この先も私たち人間が完全に管理することはできないでしょうが、日本において原子力は私たち人間で終りにすることができます——この道を進まれ、幸運を心から願っています！

※1 シェーナウの奇跡と呼ばれる反原発の市民運動から生まれたエコ電力供給会社

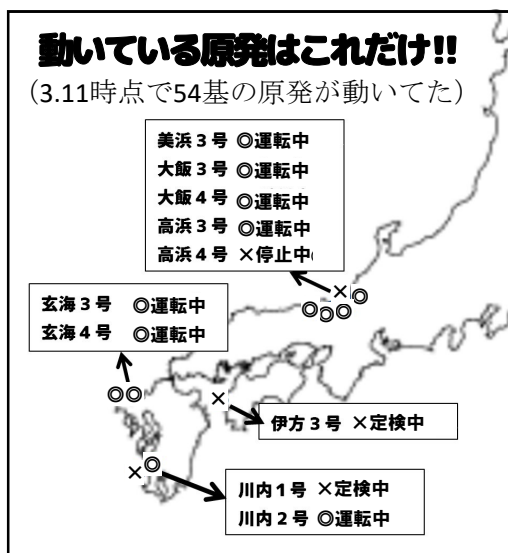
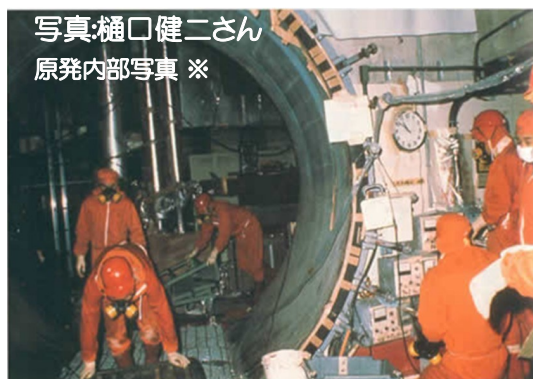
※2 冊子「原子力に反対する100個の十分な理由」 <https://rief-jp.org/ct13/39808>

東京電力の起こした破局的な大事故は、原子力をコントロールできないことを明らかにしました

＜私達が考える【原子力に反対する十分な理由】＞

✓「基本的人権をないがしろにしてる」→原発は、私達の生命と健康と生活を脅かすものである。憲法第25条の生存権は「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と謳っています。

✓「被ばく労働者」→何万人もの労働者が原発で被ばく労働をしています。多くの場合、十分な放射線教育も防護も、行われていません。



✓「原発がなければ電力が足りないというウソ」
→2011年福島原発事故以来、東日本の原発は現在の2022年まで止まったままですが東京でも停電など起こってません。

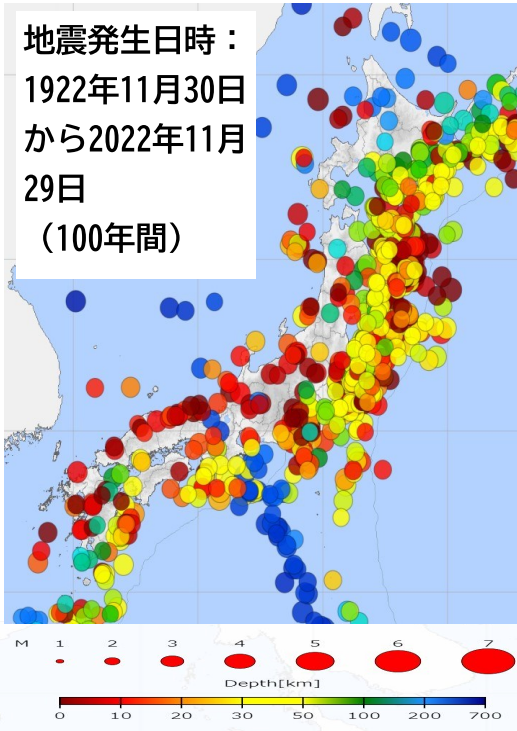
✓「フレコンバッグ」→福島周辺の15万か所に放射性廃棄物入りのビニール袋がまだ山積みされ、その上福島地域の70%は、除染できない山と森でおおわれています。



✓「故郷を奪われる棄民政策」→一般人の放射線被ばく限度は、1年間で1ミリシーベルト以下と法律で定められていますが、福島では20ミリシーベルトという20倍まで許容範囲として強いられ、今でも改善されていません。それでも避難した人は故郷に帰らなければ経済的支援を受ける権利を失うのです。国連人権理事会もこの非人道的慣行を何年も批判しています。

✓「保険の限界」→日本では、福島の事故賠償額は21.5兆円を超えるというのに、損害保険会社の引き請け額は1,200億円のみ、殆どが国民の税金と電気料金から賠償に充てられています。

地震発生日時：
1922年11月30日
から2022年11月
29日
(100年間)



✓「日本の国土は地震の巣」⇒地震は専門家でも意見が分かれ未解明の事ばかり。原発は、地震に対し十分な対策が取られていません。重要な冷却システムに欠陥があったので、福島事故が起きました。今も、1基の原子炉に対し7万～8万本配管があり容易に点検もできない箇所が存在し、壊滅的な結果をもたらす可能性を秘めています。

●図の説明：過去100年間、震度3以上、大きい順に上限1000回□を表示、濃い○は浅い深度、薄い色は深度30km以上の地震。

出典：気象庁 震源データ

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/>

地震

✓「海を汚染」⇒福島原発の放射性物質は主に太平洋側に風が流れ、海を汚染。原発から流れ出る水からトリチウム、放射性ストロンチウムも除去されず、無責任なことに東電は、放射性液体を海に放出することにし国も了承しました。漁業関係者など根強い反対があります。

✓「解体された原発廃材から鍋やフライパンが作られるの…!？」⇒そんな危険なことが現実になっています。放射能の「スソ切り処分」制度を盛り込んだ原子炉等規制法改悪案が2005年5月の国会で成立しました。原発廃材の金属をフライパン、デスク、飲料缶などの日用品にリサイクルされる可能性があるという事です。また、解体コンクリートは路盤材に、汚染土は菜園用腐葉土として販売されようとしています。



✓「航空機墜落の危険」⇒20年の間に、玄海原発の上空に110回以上の未確認未許可の航空機の飛来がありました。調査も対策も全くしてません。

✓「燃えやすいケーブル仕様」⇒玄海原発は、原発には必須の難燃性ケーブルへの交換が必要も、技術的にムリだと放置されています。

✓「原発事故の責任は誰も取らず」⇒原子力発電所は、多くの人々の生命と健康に大きな脅威をもたらします。それらは、核兵器の拡散のリスクを高めます。そして、何十万年も安全に保管しなければならない廃棄物を生み出し未来の子ども達に残します。

玄海原発プルサーマルと全基を
みんなで止める裁判の会

佐賀市伊勢町2-14 090-6772-1137/080-5254-6866
saiban.jimukyoku@gmail.com
<http://saga-genkai.jimdo.com/>

